



おおあし

第4号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/> 》

立つ鳥跡を濁さず

昨年行われたカタール・ワールドカップの試合後に、ゴミ拾いをした日本人サポーターが話題となりました。選手自身も使用したロッカールームをきれいにしていたことが各国メディアから取り上げられ、これぞ「最高の文化」であると世界から称賛されました。同じ日本人として誇らしく思い、選手の活躍もあって喜んだ方も多かったことと思います。

国立教育政策研究所が2017年に行った『学校組織全体の総合力を高める教職員配置とマネジメントに関する調査研究報告書』によると、日本、アメリカ、イギリス、中国、シンガポール、フランス、ドイツ、韓国といった8カ国のなかで、学校で児童生徒が清掃を行っている国は日本、中国、韓国の3カ国であり少数派です。諸外国では「作業を清掃員に任せることで学生が本分に集中できる」という考え方が主流のため、日本人サポーターの行動にも、「清掃する人の仕事なくなる」「相手が頼んでもないのにやるのはよくない」と批判の声もあったようです。

清掃を行うという行動の一つから、自分の使う場所をきれいに保ち、物を大切にす気持ち、他者と協力してやり遂げる協調性、将来同じ場所を使うであろう他者を思いやる気持ちを、長年私たちは清掃から学んできました。日本人サポーターの行動はもちろん誇らしいことではありますが、私たちの代表として日本の良き文化を当たり前のように海外で実践してきたということに過ぎません。私もよく野球観戦に行きますが、自分が出したゴミは、球場内に設置されているゴミ箱に入れることはお手伝いします。私が行っていることは至って普通のことではないでしょうか。

本校では給食後の15分間を清掃の時間とし、原則無言で行うことを目標に指導しております。職員も清掃指導の時間ですので、児童と一緒に清掃したり指導したりしています。学校生活の中では、学習等で使用したゴミは教室に設置されているゴミ箱に分別して捨てること、使用したものは元にあった場所に戻すこと、校庭に進出してきている雑草を保護者・地域の方々の協力を得てみんなで取り除くこと、学年末には使用した教室等を大掃除すること、校外行事や宿泊学習においても「立つ鳥跡を濁さず」を指導に生かしております。今後も、保護者、地域、来校者の方々にとって開かれたきれいな学校づくりを推進してまいります。

大芦小学校の校区内を歩いていますと、毎日のようにゴミが落ちています。地域の方々も本当によく清掃活動に取り組んでおられますが、残念ながら私が歩いていた日に、全く無かったということはありません。落ちていた物は、お弁当や菓子などを食べた後の袋や入れ物、飲みかけや飲み干した後の空き缶やペットボトル、そしてたばこの吸い殻が大半です。児童が落とした物だけではないようです。きっと学校の清掃指導に行き届かない部分があったのではと、反省の意を込めてこれからもできる範囲でゴミ拾いを続けたいと思います。

長い休みが間近となりました。本校の児童も、学校生活の中で学んだ「立つ鳥跡を濁さず」を、自分たちの地域ではもちろん他のところでも、十分に発揮してくれることを期待しています。

(校長 横尾 臣)